

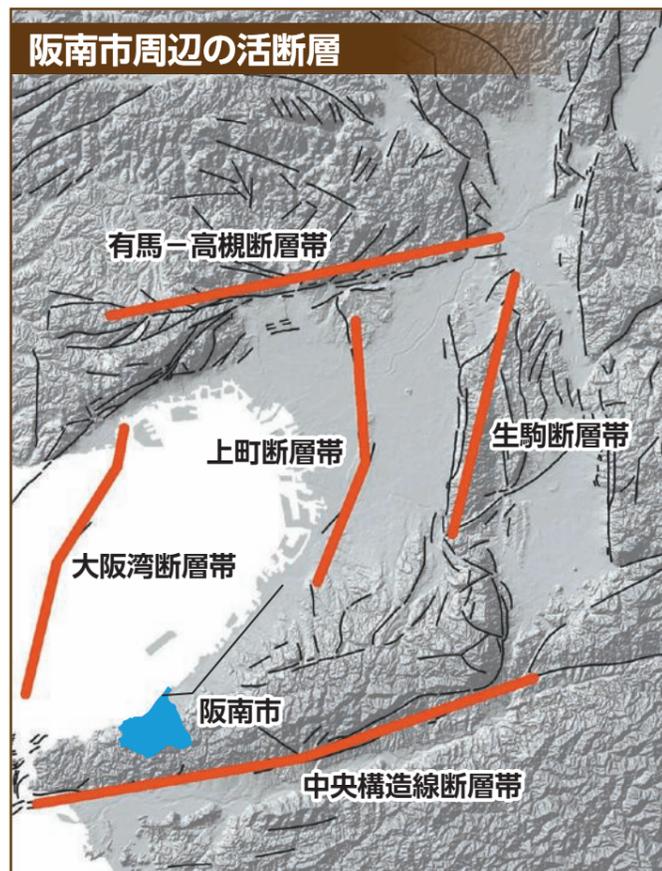


阪南市で起こり得る地震は

阪南市周辺には、市を取り囲むようにいくつもの活断層が存在しています。これらの活断層が活動すると、大きな地震が発生することが明らかにされています。

とりわけ、中央構造線断層帯地震は、大きなエネルギーをもった地震が発生することが国や大阪府の調査で明らかにされています。

また、四国沖から東海沖の海底約4,000mにある溝（トラフ）は、南海トラフと呼ばれており、この南海トラフ沿いでは、2つのプレートが衝突しているため、非常に活発な地震発生帯となっています。南海トラフについては、これまで様々な調査が行われてきましたが、東日本大震災以降の国の調査において、新たに震源域が見直され、極めて大きな地震を引き起こす可能性があることが明らかにされました。



阪南市での地震災害の特徴は

平成23年3月に発生した東日本大震災でも明らかにされたように、地震は、ひとたび発生すれば、さまざまな被害を同時にもたらす極めておそろしい災害です。

特に南海トラフ巨大地震発生時には、大きな津波の襲来による被害も想定されています。

南海トラフ巨大地震によって発生する災害や被害の種類

阪南市の地震の被害想定（大阪府の調査より）

想定地震	全壊建物	半壊建物	死者数	負傷者数	避難所生活者数
中央構造線断層帯地震	859棟	1,183棟	6人	215人	1,676人
南海トラフ巨大地震	1,697棟	4,119棟	290人	1,060人	6,667人

共通編

風水害編

地震災害編

ロープからの備え

共通編

風水害編

地震災害編

ロープからの備え



地震災害が起こったら



どの程度の揺れでどのような被害が発生するの？

地震の揺れは、震度で表現されることが多いです。この震度と被害は一般的に以下のような関係にあると言われています。

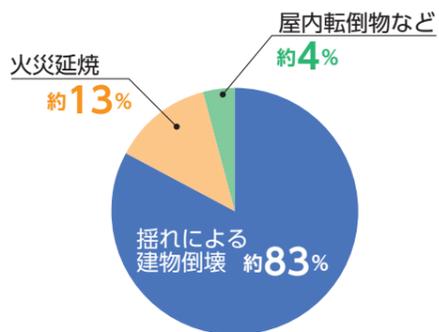
地震の揺れと被害想定

震度 4	震度 5弱	震度 5強	震度 6弱	震度 6強	震度 7
<p>ほとんどの人が驚く。食器などは音をたて、置物が倒れる。</p>	<p>大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。食器類が落ちる。</p>	<p>歩くことが難しい。固定されていない家具や補強されていないブロック塀が崩れることがある。</p>	<p>立っていることが困難。耐震性の低い木造建物には倒壊や損壊するものがでてくる。</p>	<p>はわないと動くことができない。耐震性の低い建物では倒壊するものが多い。</p>	<p>耐震性の高い建物でもまれに傾くことがあり、耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では倒れるものが増える。</p>

建物や、家具が凶器になる！？

地震が発生すると、強い揺れによって、建物自体が倒壊するおそれがあります。また、建物が無事でも、家の中のタンス・本棚などの家具が転倒したり、照明器具が落下するなどによって、大きな怪我をするおそれがあります。地震によって発生する死者数を要因別にみると、その大部分が建物内で発生することが想定されています。

建物倒壊と家具の転倒などが人的被害を受ける主な要因なんだよ。家の中を安全な空間にすることが重要だよ。



■ 想定死者数の要因別割合
※南海トラフ巨大地震発生時（津波被害は除く）
平成25年大阪府地震被害想定調査より

家屋の耐震化

地震災害から命を守るためには、「建物を強くする」ことがとても重要です。建物を強くする方法として家屋の耐震化が有効な対策です。

- 「老朽・腐朽部材」の交換**
老朽・腐朽部材は新しいものに交換しましょう。
- 「壁」の補強**
耐力壁の数を増やすと建物は丈夫になります。
- 「基礎、地盤」の補強**
土台がしっかりしていないと、大きな地震の時は、住宅が倒壊する危険性が高くなります。基礎を補強して建物の性能を上げましょう。
- 「屋根」の軽量化**
重たい屋根を軽量化することで、耐震力を高めることができます。
- 「接合部」の補強**
柱などの接合部がどのように作られているのかを確認し、できる限りしっかりとつなぎ合わせるようにしましょう。

家具の固定と配置の見直し

地震が発生したら、あなたの身の回りの物が危険物となります。このような危険物から身を守るためには、家具を固定したり、家具の配置に気を配ることが大切です。

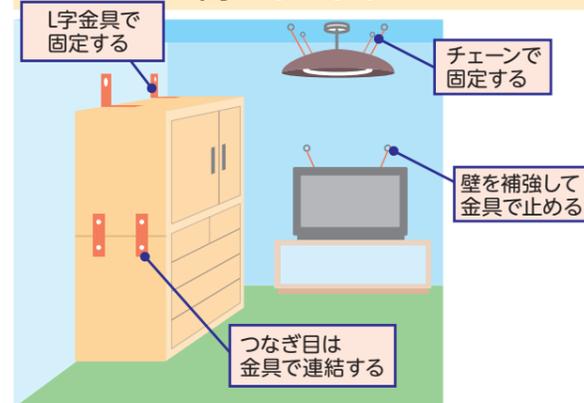
家庭でできる地震対策4つのポイント

- 1 安全な空間を確保する
- 2 家具の配置に気を配る
- 3 転倒防止器具などで固定する
- 4 ガラス・収納物の飛散を防止する

ガラスや物の飛散をふせぐ！



倒れないように！



配置も注意！



共通編

風水害編

地震災害編

ロケットからの備え

共通編

風水害編

地震災害編

ロケットからの備え



地震災害から命を守るためには？



地震発生時、あなたがとるべき行動

地震が起こったら、まず揺れから身を守ることが大切です。身を守るための対処法を覚えておきましょう。揺れから身を守った後は、状況を確認するために情報収集をしましょう。

屋内にいたら

家の中では

- 大きな揺れを感じたら、テーブルの下に隠れ、身を守りましょう。
- 裸足で歩きまわらないようにしましょう。
- 乳幼児や病人、高齢者などの安全を確保しましょう。



会社では

- 窓際や資料棚など、物が落ちてくる場所から離れて、机の下などに入って身を守りましょう。

安全確認 電気・ガス

避難が必要な時には、ガスの元栓や電気器具からの出火を防ぐためブレーカーを切り避難する。

屋外にいたら

学校では

- 先生や校内放送の指示に従いましょう。
- 教室にいたるときは、すぐに机の下にもぐり、身を守りましょう。
- 窓や本棚から離れましょう。



エレベーターの中では

- 自動停止した階で降りましょう。自動停止しなければ、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出ましょう。
- 閉じ込められたときは、非常ボタンやインターホンで連絡を取り、救出を待ちましょう。



屋外にいたら

繁華街では

- ガラスや看板などの落下物に注意しましょう。
- 頭上からの落下物があるときは手荷物などで頭を守りながら、近くのビルなどに逃げましょう。



地下街では

- 柱や壁に身を寄せて、あわてずに揺れが収まるのを待ちましょう。
- 火災が発生した場合は、ハンカチなどで鼻と口をおおって、壁づたいに姿勢を低くして地上を目指しましょう。



屋外にいたら

電車の中では

- 転倒や落下物に注意して、つり革や手すりにつかまりましょう。
- 座っているときは、足を踏ん張って上体を前かがみに、手荷物などで頭を守りましょう。



車の運転中では

- 道路の左側に停車し、揺れがおさまるまで車内ラジオなどで情報を聞きましょう。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ロックせず、車検証などを持って、徒歩で避難しましょう。



地震から身を守る方法

まずは!

- 落ちついて、自分の身を守る。
- 揺れがおさまってから、すばやく火を始末する。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。



次に…

- 火元を確認、出火していたら初期消火。
- 家族や周りの人の安全を確認。
- 非常持出品を手近に用意する。
- 逃げるときは靴をはく。



津波から避難するときは



津波発生時の命を守る行動

津波から身を守るためには、「高いところへ一刻も早く逃げる」ことが大切です。津波から身を守るための避難行動のポイントを覚えておきましょう。

予報の種類	こんな時には	まずはこのような行動を
大津波警報	強い地震や長時間の揺れを感じた	<ul style="list-style-type: none"> ●海岸から遠い場所に避難する。(南海本線や府道752号より山側を目指す。) 
津波警報	大津波・津波警報が発表された	<ul style="list-style-type: none"> ●海沿いの地域以外の人でもテレビやラジオで警戒を続ける。 
津波注意報	津波注意報が発表された	<ul style="list-style-type: none"> ●海辺にいる人はすぐに海から離れる。 ●沿岸部にいる人は、避難準備をする。 



津波警報とは

津波警報は、気象庁が地震発生時に、地震の規模や位置をすぐに推定し、予想される津波の高さを地震が発生してから約3分程度を目標に発表するものです。

これは、阪南市の防災行政無線をはじめ、テレビ・ラジオなどのマスコミや緊急速報メールなどを通じて伝達されます。

津波から逃げる3つのポイント

- 1 より遠くより高く逃げる**

津波からの避難は、まずは、遠くに逃げましょう。(南海本線や府道752号より山側) さらに、できるだけ、高い場所に移動しましょう。
- 2 原則、避難に車は使わない**

多くの人が同時に車で逃げると、渋滞が発生するおそれがあります。また、踏切が閉じたままになることもあり、車では横断できない可能性もあります。
- 3 小さな揺れでも安心しない**

津波の危険な地域では、小さな揺れ(特に長く揺れた場合など)でも、油断せず、避難を最優先に考えましょう。

共通編

風水害編

地震災害編

ロケットからの備え

共通編

風水害編

地震災害編

ロケットからの備え